



市内の気になる話題をご紹介します。

5/25

## 思春期の子どもが命の大切さについて学習

命の大切さを学ぶ「命のふれあい講座」を、市内の中学3年生を対象に、NPO法人サン・はぎわらが行いました。助産師、保健師、妊婦などを講師に招き実施。赤ちゃん人形の抱っこや妊婦体験を行い、命の誕生や子育てについて学びました。生徒は、実際に体験することで、今生きていることに感謝の気持ちを持つことや喜びを改めて感じることができました。



講師から赤ちゃんの抱き方を教えてもらい、真剣なまなざしで耳を傾ける生徒ら＝金山町金山、金山中学校

6/4

## 関心や意識を高め、防災力を向上!

はぎわら防災クラブが、「防災フェア in 萩原」を開催しました。

会場では、さまざまな催しを実施。

地震体験車による震度7の体験、防火服を着ての放水体験、消火器の取り扱い体験などで、防災や減災への意識を高め、いつ起こるか分からない災害に備えるきっかけとなりました。

(表紙記事)



地震体験車に乗ってテーブルやいすにつかまり、震度7の揺れを体験する子どもたち＝萩原町羽根、あさぎり体育館前

6/3

## 交流30周年を記念してケチカン市長が来訪

下呂市と国際姉妹都市提携している米国アラスカ州ケチカン市の中学生ら18人が、6月1日から12日まで下呂市を訪れました。また、交流30周年を記念して、ケチカン市長も来訪。

3日には、金山町国際交流協会による歓迎イベント「ケチカン・デー」で、ケチカン市の文化と日本の文化をお互いにふれ合う催しなどが行われ、交流を深めました。



「ケチカン・デー」で、日本語による自己紹介をするケチカン市の中学生ら＝金山町大船渡、下原公民館

6/4

## 約1,500人の来場者でにぎわい! 「森の宝島 in はぎわら」

“好きが生かせる楽しいまちづくり! つながろう、ひと・もの・こと!”をテーマにした「森の宝島inはぎわら」が開催されました。

NPO法人サン・はぎわらを中心にした実行委員会が主催となり、地域を盛り上げようと賛同したさまざまな団体も出展。

いろいろなイベントを楽しむことができ、会場は笑顔であふれていました。



蒸気が吹き出すミニSLに乗れるイベントで、お母さんに手を振る子どもたち＝萩原町萩原、星雲会館